

令和7年度文化人材育成講座(スタートアップ編)

(1)レクチャー＆ワークショップ教室 Vol.1 地域のよさを見つけ、企画をたてよう

開催日 9月23日(火・祝) 場所 高知県立高知城歴史博物館 実習室

講 師 畠中智子さん(株式会社わらびの)

*言葉をかえた箇所や省略した部分があります。ご了承ください。

*講座の臨場感を出すために、できるだけ話し言葉そのままにしております。

*ワークショップ部分の文字起し及びアーカイブ配信は行いません。

.....

■〈おつまみ神社〉のこと

私、生まれも育ちも香美市物部村。自分の地元にすごく愛着があったし、たまたま川上様(大川上美良布神社)の宮司と同級生だった。その神社っていう場所を生かして何かできないだろうかね、っていうのが事の始まりでした。

昔は神社って言ったら人が集まるというところ。祭りとか以外でも、何かいったら神社って人が集まりよったのに、なかなか、近年そういう場として意義が薄らいできたというか、なんか神社の境内にまた人を集まるようなことしたいのよねって。ちょっと「ひろめ市場」みたいに飲みもって楽しく集まる。昔は神社によく神祭とかお皿鉢をならべて、人が集まったりとか、そんなんが当たり前に繰り広げられよったけど、(高知市にある)ひろめ市場みたいにしてみようかっていう。なので、おつまみ神社とつけてるんですけどね。おやつ神社のパクリです。そして、2016年の9月のことですけど、こういう「おつまみ神社」についてやりたいなという人たちが集まって話し合いをしました。今日午後には、これファシリテーショングラフィック(図1)って言うんですけど、もう神社のすごい年とった総代さんと、この界隈に移住してきたばっかりの若い人たち、そういう人たちが一緒に言葉でコミュニケーションするのつ

て、海外の人と喋るより難しいがよ。なので、そういう、あの年齢の幅とか立場のなんか違ひっていうのを書いて目で見ながらしっかりみんなで共有していきましょうっていうので、私はまちづくり、地域づくりっていうのは、視覚化する、見える化するっていうので話し合いやってるんですが、ここの神社でも、最初におつまみ神社やろうか、まだ、仮称になってますね、こうやって書いて、みんなで内容を確認し合いました。地域で人を巻き込んで何かをやるっていう時にはこういう、お互いがコミュニケーションをしっかり取り合う、その工夫っていうのが必要になってきます。



(写真1)

で、こんなん、ほら、ひろめ市場でしょう(写真2)、神社の境内にテーブルが並べて、周りにいっぱいお店が出てるんですけど、いわゆるテキ屋さんっていうのは、それを生業としている方は1店も出ていません。



(写真2)

代わりに、この香美市の香北町界隈に営んでいるカフェの方とか、食堂とか、それからそこで地域づくり活動をしていらっしゃる方々とか、そういう人たちがお店を

だいたい毎年、2016 年から毎年やってるんですけど、少なくとも 12、3、多いと 20 近くのお店が並んで、地元のものばっかりが並ぶ、地元のね。もう大人のお店屋さんごっこみたいで楽しいっておばちゃんらはもう生き生きしてます。もうその下の、私と同じ年なんんですけどね、この方とこういうのができたらいいねっていうのを神社の宮司も交えてんですけど、もう飲みもって、しゃべりもって、気楽で最高って喜んでます。右側は TOSACO さんをご存知ですかね。ビールの TOSACO さんも移住してきて数年になるんですけど、子育て中で、子連れで参加できて嬉しい、なかなか子どもを置いてどこかのイベントに出店するって言ったら大変やけど、子ども連れで地域の方とこうやってまじあえる。それから、そのすぐ下がお裾分け食堂「まど」っていうのを、高知大学を卒業してすぐに始めた鳥取県出身の子なんですね。たくさんの地元の方と知り合えて仲良くなれるこんな機会があって嬉しいって言って、主力メンバーの一人に最近は育ってきています。

老若男女、さっきもあげましたように子供も大人も楽しめるっていうキーワードがありましたけど、まさしくそれで、左上には「いなかみ」っていう移住支援の NPO が香美市にあります。その「いなかみ」さんが、将棋上手なじいちゃんを相手に小学生の青空将棋教室を開いてみてくれたり、大人は横でのんだくれてるんですけどね、子どもも楽しい。それから右上はちょうどね、この年は(高知県立)山田高校の生徒会の皆さん、惣代さんたちがずっと金魚すくいをやってたけども、あの重い金魚を持ったり水槽持ったり、腰へくるき(くるから)、わしらもようせんって言い出したら、高校生たちが、じゃあ私たちがそれやります、みたいな。おじいちゃんたちも喜ぶ、高校生たちも祭りを主催者運営側として楽しむっていう機会になりました。

その右の下は高知商業高校ジビ工部。聞いたことがありますよね。そうそう、日曜市にも出します。このジビ工部の顧問が香北町(在住)なんですよ。そんな縁もあって、うちの高校生たちにもじゃあ、活躍の場をというので、目の前でね、大人が飲んでるんですけどね。それが高知のええとこですよね。子どもと飲んでいる大人たちを一緒にしてはいけないみたいな文化は高知ってゆるいじゃないですか。

実は、ひろめ市場も他県の方々がみんなね、あんな施設がうちに欲しいって香川県とか山口、岡山でも作られた経緯があるんですけど、すぐやまって(中止になって)ます。やはり老若男女が酒を介して集まることに対する文化の目線の違いつていうのがあるんですね。高知に生まれて良かったとつくづく思いますけど。

音楽なんかもかけるんですけど、この年はパプリカの曲が流れたら、一斉に子どもたちが前に出てきて、一斉にパプリカを踊り出して、それをじいちゃんばあちゃんたちが手拍子で喜びながら飲んだくれる。そういうすごく幸せな空間が、昼のだいたい 3 時ぐらいから夜の 8 時まで続けています。最近では、(高知市の) 帯屋町でも弾いていますし、クルーズ船なんかでも演奏したりしてプロの音楽家も呼んできて、そしたら、こうおひねりを投げたりとかいうそういう非日常っていうのを地域の方々がとても喜んでいたり、それから、よさこいも招いて、私が踊っているチームに声かけたんですけど、毎年来てくれるようになったんですが、多い時は 30 人ぐらいの踊り子さんでやってきてくれて、地域のお年寄りなんかは、よさこい祭りというのがあるのは知ってるし、テレビも見たことあるけど、生のよさこいを、まあ、この田舎におって見れると思わざった(思わなかった)、つてものすごい喜んでくれて、

(質問) 香北の方ってよさこい、ないんですか。

ないです。

そして、こちらは(高知県立) 丸の内高校で、音楽科の先生、ブギウギピアノを弾いている方が毎回演奏に来てくれるようになりました。彼は、コロナの頃に演奏の機会っていうのが全然なくて、どんな小さなところでもいいから演奏をしたいっていうので、あの屋外だから問題ないよね、と。で、コロナの本当に秋に近い頃に、あの屋外で縮小してちょっとやった時に演奏を始めてから、最近は自分の指導する丸の内高校フォークソング部を連れてきてくれるようになった。(写真3)



(写真3)

おつまみ神社、老若男女が集まってる地域の方にも喜んでもらえるようにって彼女たち、昭和歌謡を歌ってくれるんですよ。昭和歌謡を歌う高校生たちが今、大人気で、こうやって地域と交わりを持っていく。地域の人たちにこんな風に喜んでもらえる、神社で演奏ができる、と高校生たちも喜んでいてくださっています。

こういうおつまみ神社、記事にもしていただいたことがあるんですけど、今皆さんにお配りしているチラシとか、それからのぼり旗も今年の春に作りましたが、こうしても地元のデザイナーさんを活用しています。デザインってすごく必要なんですね。今、後ろにもずらっと並べている、ああいう日曜市の台所とか、そういうのも絶対あの、今、無料ソフトあるじゃないですか。無料ソフトでもすごく綺麗にはできるんですけど、やはりその地域でないと出せない味わいみたいなものが私は絶対あると思うので、地元デザイナーっていうのにこだわってお願いしています。

■神社で狂言を手作り上演したこと

この神社の境内なんですけど、やっているうちに、御通夜殿（おつやでん）という回り舞台、さっきあの女子高校生が演奏してたところがそうなんですけど、回り舞台が設置されている。で、宮司に聞いたんですね。これ昔は何かしら、農村歌舞伎とかそういうのがやられてたのかなっと。昔、狂言をしようとしたという歴史がある、昭和の初期頃まで。そうやって使いよったら、また狂言できたらええねえっていう話をしたら、たまたま、私は茂山一家っていう京都の狂言師の方々と出会うことができまして、で、話をしたら、狂言師の方々も今、狂言を行うとなると、高知やったる県立美術館の能楽堂とか、ああいうお能をするところを使って狂言をするっていうのが割とスタンダードになっているけれど、そうじゃないんだ、と。狂言っていうのはもっと神に近いところで、本当にこういう神社の舞台とかで、その地域の人たちが集まってワッハワッハと笑う。それが狂言のそもそもの姿だって言ってくれた。衣装代の運搬費諸々というのは、ほぼボランティアで来てくれました。ちなみに来てもらうのに、高知県文化財団文化事業助成金で行いました。

衣装代の運搬費ばあ（くらいだけで）で来てくれた言うても、やっぱり宿泊費はいるしとか、なんやかやの資金をこうしたところで運営予算を助成していただいて行つたんですが、先ほどの御通夜殿に椅子を並べるのもみんな仲間たちがボランティア

でやってくれたんですけど、見づらいけど、金屏風に松…、お能の舞台の中で松の絵が描かれた、あれはなんか松でなんかこう…悪いものがこう、舞台の方に入つてこないようについて、そういうた謂れがあるらしいんですけど。松羽目なんてないから、役場の人が屏風を用意してくれて、それから地元の植木屋さんが、えい(良い)枝ぶりの松の植木鉢があると、それを貸しちゃる(貸してあげる)、言って持ち込んでくれて、紅白幕なんかもなんか。公民館にあるのをちょっと貼つてみようかつて全部手作りで舞台も作り上げました。(写真4)



(写真4)

協賛金も一生懸命宮司さんたち中心に集めてくれて、それも地元の書道家さんが全部書いてくれました。風が強い日やった時にバッサバサ大変やったんですけど、もう地元の人たちがわんさか集まってきてくれて、こんな田舎で、本格的な狂言が、しかも慣れ親しんだ神社の境内で見れると思わざった(思わなかった)っていうので、子どもたちもたくさん来てくれました。で、ちょっと松明を抱いて、雰囲気も出して、こんな感じで夜の境内で、本格狂言というのは、もうとても皆さんに喜んでいただいて、なんかこう笑い声がね、境内にこだまするんですよ。わーって、ドッカーンみたいな。

■神社でイベントをするということ

もう、神様も絶対喜びゆう(喜んでいる)って、宮司たち、みんなが大喜びだったんですけど、この日もこうやって記事にしていただきましたが、こうやって神社で行うのが狂言のあるべき姿っていうふうに狂言師たちが言ってくれたこと、これによつて地元の人たちって誇りを持てるんですよね。地域に「あ、うちのところにある神社ってこんなに素晴らしいとこやつたんや。回り舞台があるっていうのはこんなにすごいことなんよ」っていうふうに、狂言師たちに一言言つてもらえることで、みんなが「嬉しい」って言って。これまで 2019 年に 1 回やって、2023 年に 2 回やりましたけど、そんなこんなで、2015 年は準備みたいな感じで、川上様で縁が繋がつたらええねって、「川上様に縁つなぎ市」っていう名前でやりよつて、2016 年から「おつまみ神社」っていう風に徐々に名前を変えて、2019 年の 9 月からはもう「おつまみ神社」。2025 年の 3 月で「おつまみ神社」としては 14 回目、今年(* 2025 年)に 15 回目が開かれる。本物の狂言が自分の町で楽しめたとか、神社でワイングラス傾けるの素敵。ちなみに、あの井上ワイナリーさんが出店してくれるんです、ぶどうの圃場があるので、美良布に。それから本物のよさこいを初めて見られたとか、地域の方々にそうやって、色々な、色々な文化っていうのを「ひろめスタイル」で味わつてもらつてはいるっていうような催しです。

最近、神社つながりで、神社の宮司ネットワークの中でちょっと話題になつてゐるみたいで、うちの地域の神社でもこんなことやりたいな。で、神社で、神社を核にこういう音楽の催しとか、外国人たちとの交流会とか、神社をもっともっと使ってもいいんじゃないかなって思うんですけどね。

ちょっとやってたら、「あしたのまちくらしづくり活動賞」っていうので、振興奨励賞も受賞することができた。こうやって受賞すると、中心メンバーたち、おっちゃん、おばあちゃんたち、私も賞をもらえるようなことをしようつたがや、と。だから、またこれが一つ、地域に住んで、地域でいろんな活動をすることで誇りが持てる。そういう活動賞っていうのを、この記事にもっと読んでいただきたいところがあるんですけど、グループが大切にしているのは、ゆるつと集まること。会則や会費はなく、団体の枠にも収まらず、イベントごとに出店する人もいる。「この指、止まれ」で徐々に仲間が増えて、みんなが心地よく継続できれば、と畠中さんは話すつて書いてあるんですけど、会則も大事なんやけど、それでがんじ絡みにしてしまつて、「あの人毎回来ゆう(来る)けど。あの人 1 回ばあ(くらい)しか顔出してないで」とか、そういうの

が、すごく一番嫌なんです。できる人ができる範囲で無理なく継続を、っていう、そんな仕組みを地域に持っておきたいなと思って、この取り組みを続けています。だから無理なことはしない。

■地域の宝物探しから始まる

最後に、ちょっと事例としてご紹介しておきたいなと思うのが、ある作家さんが、数年前にアンパンマンミュージアムに来てたんです。私、3年前までミュージアムのすぐ横でカフェをやってたんですね。地域情報を得たいっていうのと、地域の人とお茶を飲みながら、ネットワークを構築したいなっていう狙いもあって、一時カフェをしてたんです。その時にふらり彼がやってきて、彼が言うのに、やなせたかしさんをスーパーリスペクトしてて、同級生たち3人と5年に1回旅をしてるんだけど、今年は無理を言って友達2人に付き合ってもらって、ミュージアムまで来たんです、っていう話をされた。すっかり意気投合して。すぐに私はその彼とインスタグラムで繋がって、彼の個展情報なんかも見てたし、なんやかんやのメッセンジャーでなんか情報交換してて、いつかあなたの個展を、あなたがリスペクトしているやなせたかしさんのふるさとでできる機会を私はうかがうね、だから頑張って活躍しててねっていう応援メッセージをちょっとしてたんです。その「あんぱん」というドラマ放映が去年に決まって、去年にちょっと打診をし始めて、ようやく今年、これも香美市の事業応援、市民の手作りの事業を応援しますっていうのに手を挙げて、やっと夢が叶って、彼を招いてアートイベントをすることになりました。

そのアートイベント、さてどんな切り口でやろう。ただ絵を飾るだけじゃ面白くないなっていうので、それまでずっと彼のインスタを追ってたので、彼が子供たちと一緒にアートイベントをやっているっていうのを情報として知っていたので、香北町でアンパンマンミュージアムに来た子どもたちと一緒に町を飾る星の絵を描くのはどうだろう。

彼の絵のモチーフが星なんですけど、実はニュース、新聞なんかで皆さんご存知じゃないですかね。美良布商店街っていうのがアンパンマンミュージアムのすぐ近くにあって、そこにアンパンマンの街灯が並んでたんです。そのアンパンマンの街灯が、ドラマが始まる前に全撤去されたんです。老朽化している、フレーベル館さんのお

話によると、やはりクオリティが保たれていないから、クオリティが低いものは人が押し寄せる前に全部なくす、その代わりに「カミーティア」っていう、やなせさんの、キャラクターっていうのかな、星のキャラクターの絵があったんですけど、それをモチーフにした街灯に全チェンジすると。星や、星の絵を描く作家やっていうので、それで星の絵を描こう、町に飾ろう、っていう取り組みになりました。

こんな催しを考える前に香北町にどんな宝物があるかなっていうのをいっぱいだしあったんですけど、ここから始まるんですよね。多分皆さんがこれから文化事業っていうのを考える際もそうやと思うんですけど…、日本一の花嫁写真カメラマンがある、全国グランプリを 3 年連続受賞しているぐらいの素晴らしいカメラマンなんですけど、日本一のブライダルカメラマン、それから映画会、星空映画会っていうのがアンパンマンミュージアムの前で時折開催されてるんですけど、それを企画して実施できる青年団。青年団がまたちゃんと活躍をしゆう、そんな地域でやってること。元気なおばちゃんらが「かるかんまんじゅう」っていうのを、最近はやなせさんにあやかって、朴ノ木饅頭とかね、どんどんクリエイティブな饅頭を作っているおばちゃんたちがおったり。昔は何か言うたらトイレットペーパーを体中に巻いて、月光仮面もやりよった元役場職員の紙芝居作家があるとか、自家製の小麦で美味しいお菓子を作るデザイナーがいる。このデザイナーっていうのが、さっきのチラシのデザインとか、全部お願いしているところです。だから、何でも「カモン」でなんでもやるで、やるでっていう宮司がある。妙に照明に詳しい神職さんがおる、さっきの境内の写真でピンクのライトとかスモークがたかれちゃったりとか、よさこいの、あれ全部プロを呼んでるわけじゃなくって、神職さんが趣味で持ちゅうがです、そういう機材を。それもすごいですよ。だから地域の特異な得意技を持つてる人を知っちょくっていうのも、これもだから私、カフェをやりよったから、そういう変な人と繋がることができた、発見することができた。

それから、こじゃんと(とても)世話好きのヘルスマイトさん。香美市のゆずや力ヤの木から美味しいビールができ、これ TOSACO さんが作ってくれています。土佐九斤(トサクキン)を育てるこだわりの料理人。それからおしゃれなログハウスカフェがある。そういうログカフェがある地域探求を学ぶ小学校、中学校、高校、この国際バカロレアを取っている小学校と中学校が同一地域にあるという、日本中で香北町だけなんですけど、大宮小学校と香北中学校は国際バカロレアに認定されて、

地域探求を非常に熱心にやっている、そんな学校がある。それから物部の鹿皮でレザークラフトをしている作家さんが物部にいる、情熱的に星を語る人がいる……。

地域を丁寧に見つめたら、きっと(安芸市)大山岬界隈にもいらっしゃると思うし、あの須崎市界隈、土佐市界隈にも幡多にも、どこにもきっと丁寧に目を向けたらたくさんいると思う。その人たちをうまくつなげたら、あの、こんなふうに何か一つのコンセプト、つなぐコンセプトっていうのが見えてくる。

星っていうのをコンセプトにしてみようかと思うには、これだけの題材っていうのをすでに情報としてインプットできていたので、すごく素直にこの星の絵を描く作家さんと、今回のアート活動っていうのを結びつけることができました。たまたま星っていうんですけど、絶対、地域に、さっきみたいに丁寧に素材、この地域にある何かいいもの、特徴的なもの、というのをいつもこうインプットしようしたら、そのうち共通してパワーになる何かしらのキーワードっていうのが見つけ出せるんじゃないかなと私は考えています。うちの地域やったら、こう星を見つけたりとか、今、商品開発なんかで結構全国各地に行かせていただくんんですけど、同じ作業をします。丁寧に地域に何があるのか。そうした中から商品開発の柱というのを見つけてみて、これがみんなをつなぐ一つのキーになるね。商品開発でもそうです。こういう文化事業を作る場合でもそうです。1個いいものがあって、それだけでやろうと思っても弱いんですよね。大きなうねりを、みんなの共通項っていうのがあるか。大きなうねりを、これだけに関心がある人は向いてくれるけど、みんなの共通語を探していくとか、ちょっと紹介はチラシを今配りましたので板絵を描こうと思って、板絵もできれば香美市産の板がええでねえ、どつかにないうかって大工さんに、これもアンテナ張ってて、アンテナにかかってきた大工さんに、香美市産の板がどつかにないか、安うに、できればタダで手に入っただいいけどって言ったら、その大工さんが木材の木つ端があるき、いるやつたらそれを持ってきちゃおう言うて、これは全部持ってきててくれたんですけど、どうせ捨てないかんもんやったき、ただでかまん、みたいなっていうので。というので、あとにした方がいいかな。事業企画書(写真5)、この後も、このやり方に説明します。これが、(豊田)弘大さんが今回のお絵かきイベントのために描いてくれたイメージイラスト、これがチラシなんかになっています。ということで、一気に事例一点をお話しさせていただきました。

事業企画書

事業の種類	「あんばん」～星の絵馬を描こう！飾ろう！～
事業概要	大川上美良布神社には、やなせたかしさんから大きなアンパンマンの絵馬が奉納されています。その絵馬に似合う「星」の絵馬を香美的市の人たちと一緒に描き、神社や町を飾ろうという企画。指導にあたるのは「星の絵」を描き続けていた大阪在住の若手人気作家：豊田 伝大さん、やなせたかしさんとアンパンマンをスーパーリスペクトされています。 https://kotatoyoda.official.ec/
事業実施場所	大川上美良布神社境内（雨天の場合は社務所内）
事業の対象者	香美市内の小学生以上の子どもたち（参加費無料） アンパンマンミュージアムを訪れた小学生以上の子どもたち（参加費あり）
事業実施期間	2025年 9月 20日～年 月 日 ※実施に当たっては小中学校の学級行事との兼ね合いで日程を調整 6月 30日：会場下見のため作家来校（自費） 7月初旬：案内チラシ配布、参加申込受け開始 8月下旬：作家側で絵馬の下塗り作業（絵馬のデザイン性に統一感を持たせるため） 前日：境内にて会場設営＆養生作業 当日：10:00～13:00 ワークショップ実施（1時間×3回、各回 20人程度） 午後：「おつかみ神社」でお披露目、以降は商店街イベントなどで絵馬を飾る
参加見込人数	香美市内の小中学生 40名～と飛び入りの子どもたち 20人程度
参加者募集の方法及び範囲	主に香美市内の小・中学生を対象にチラシなどで参加呼びかけ→事前申込 観光客は有料で飛び込み対応（自分で描いた絵馬をお土産にしてもらう）
事業効果	1) アンパンマン絵馬に光をあて認知を広めて、観光資源としての価値を高める 2) 一定のクオリティが保たれて描かれた星の絵馬によって、神社やシンボルロード「愛と勇気の道」に付加価値をつける 3) 子どもたちが「アート」を通じてまちづくりに参加できる
団体の実績	2016年活動開始／「おつかみ神社」14回実施、「狂言を楽しもう」2回実施 【2023年高知県文化財活用事業助成事業】採択 【令和5年度あしたのまち・くらしづくり活動賞】奨励賞受賞（全国） 【こうちNPOアワード2024】奨励賞受賞（高知県）
今後の展開	1) 「おつかみ神社」の装飾アイテムとして毎回活用 2) 商店街でのイベントのたびに絵馬を飾って販賣のアイテムとして活用 3) 作家との関係性がこれをきっかけに深まれば、シャッターに星の絵を描くなどシンボルロードをより魅力的にするアート活動に繋がることが期待できる

事業企画書

事業の種類	「あんばん」～星の絵を描こう！飾ろう！～
事業概要	美良布商店街に設置される不定のカミーティア街灯。その街灯に似合う「星」の絵を香美市の人たちと一緒に描き（小さな板絵）、商店街を飾ろうという企画。指導にあたるのは「星の絵」を描き続けている大阪在住の人気作家：豊田 伝大さん、やなせたかしさんとアンパンマンをスーパーリスペクトされています。 https://kotatoyoda.official.ec/
事業実施場所	基幹集落センター、美良布商店街
事業の対象者	香美市内の小学生以上の子どもたち（参加費無料） アンパンマンミュージアムを訪れた小学生以上の子どもたち（参加費あり）
事業実施期間	2025年 9月 20日～年 月 日 ※実施に当たっては小中学校の学級行事との兼ね合いで日程を調整 6月 30日：会場下見のため作家来校（自費） 7月初旬：案内チラシ配布、参加申込受け開始 8月下旬：作家側で板の下塗り作業（デザイン性に統一感を持たせるため） 前日：会場設営＆養生作業 当日：10:00～13:00 ワークショップ実施（1時間×3回、各回 20人程度）
参加見込人数	香美市内の小中学生 40名～と飛び入りの子どもたち 20人程度
参加者募集の方法及び範囲	主に香美市内の小・中学生を対象にチラシなどで参加呼びかけ→事前申込 観光客は有料で飛び込み対応（自分で描いた板絵をお土産にしてもらう）
事業効果	1) カミーティア街灯の認知を広めて、観光資源としての価値を高める 2) 一定のクオリティが保たれて描かれた星の絵によって、シンボルロード「愛と勇気の道」に付加価値をつける 3) 子どもたちが「アート」を通じてまちづくりに参加できる
団体の実績	2025年発足
今後の展開	1) 商店街をはじめ、地域で開催されるイベントのたびに板絵を飾って販賣のアイテムとして活用 2) 作家との関係性がこれをきっかけに深まれば、シャッターに星の絵を描くなどシンボルロードをより魅力的にするアート活動に繋がることが期待できる

(写真5)

(了)